

石垣島係留ブイ設置協議会 第3回有識者会議 議事録要旨

会議概要

会議名：石垣島係留ブイ設置協議会 第3回有識者会議

日時：2025年12月19日 13:00～16:00

場所：石垣市商工会館研修室

実施主体：石垣市観光交流協会 × 一般社団法人マリトレジャー振興協会 コンソーシアム

支援事業：沖縄県サステナブルツーリズム推進事業（令和7年度）

1. 開会および本事業の主旨説明

本協議会は、今年度を「フェーズ0：共通基盤の構築」と位置づけ、来年度以降の本番の議論に向けた課題整理や「叩き台」作りを目的としている。事務局より、係留ブイの設置はサンゴ礁保全のための一つの「手段」であり、「目的」ではないことが再確認された。

設置ありきの結論を押し付ける場ではなく、賛成・反対を含めた全ての意見をテーブルに乗せる準備期間であると強調された。

2. 有識者による提言（前提の共有）

中野先生（日本サンゴ礁学会）

国際基準である「責任ある観光」（Responsible Tourism）の定義を共有し、地元の人々が決定に関与し、次世代に何を残せるかを考える重要性を説いた。また、サンゴ礁が気候変動により後戻りできない「ティッピングポイント」を超えつつある現状を報告した。

遠矢先生（名桜大学）

共有資源を放置することで環境が悪化する「共有地の悲劇」を説明。AI時代において、デジタルでコピーできない「リアルな体験」や「物理的な場所」の価値は高まり、適切に管理された資源は地域経済を活性化させる「資産」になると提言した。

3. 八重山ダイビング協会による抗議と意見交換

八重山ダイビング協会より、運営体制に関する抗議文が提出された。

<抗議内容>

地域の主要団体である同協会が初回から招聘されなかったことへの不信感、選定基準の不透明さ、および事業が「ブイ設置前提」で進んでいることへの懸念が示された。

<事務局・委員の応答>

当初は予算の都合上、小規模な会議としてスタートした経緯などが説明された。過去の確執についても言及があったが、最終的には「石垣の海を守る」という共通目的のため、同協会は未来を向いて議論に参加することに同意した。

4. 具体的タスクの洗い出し（ワークショップ形式）

来年度（フェーズ1）に向けて取り組むべき具体的な作業（タスク）が提案された。

- 組織化とルール形成：
 - 島内約 800 の全業者を組織化し、継続的に協議する体制の構築。
 - 西表島のようなガイド認定制度（市による認定）の導入検討。
 - 入域制限や時間制限など、現場の倫理観に訴える利用ルールの策定。
- 調査・検証：
 - マンタポイントの先行事例（標識設置とルール運用）の効果検証。
 - アンカリングによる損傷箇所特定と、ビデオ等による現状共有。
 - ブイ設置・維持管理費の積算と、財源（宿泊税等）の検討。
- 情報共有と啓発：
 - 行政、漁協、事業者が情報をリアルタイムで共有できる Web/LINE プラットフォームの構築。
 - 漁業者と観光事業者が連携し、リーフチェックや「サンゴを踏まない」周知活動の実施。
 - 環境省の「石西礁湖自然再生協議会」等の既存枠組みとの連携強化。ブイが必要とされる主な理由

5. 今後の進め方と閉会

- 本日の議論を事務局が整理し、次年度の提案を含むレポートを作成して参加者に共有する。
- ダイビング協会からは、より多くの現場の声を反映させるため、参加人数の枠拡大や、繁忙期を避けた早めのスケジュール告知が要望された。
- 次年度は分科会やワーキンググループを設置し、より詳細な議論を進める方向性が示された。

※ 今回の協議会の状況は、「新しい航路を決めるための羅針盤合わせ」のようなものでした。目的地（サンゴ礁の保全）は全員一致していますが、これまでは船（各団体）ごとに異なる海図を見ていたため、足並みが揃いませんでした。今回の会議で、まずは同じ船に乗り、どのような道具（ブイやルール）を使って嵐を避けるべきか、その具体的な準備リストを全員で作りはじめた段階と考えています。